

DG Value News

第34期のご報告 2014年4月1日～2015年3月31日

Vision
ビジョン

イメージをカタチに

私たちローランド ディー.ジー.は「イメージをカタチにする」ソリューションを世界中の人々に提供し、新たな創造の世界を切り拓いていくことを目指しています。

私たちは、Imagine.(想像)こそがすべての分野における創造の原点であると考え、お客様が描いているImagine.の世界を大切にし、お客様とともに「想像を超える創造」を実現していきます。

▶ 世界200以上の国と地域で

当社グループの販売力を活かし、世界200以上の国と地域のお客様に製品やサービスを提供しています。

● 連結販売子会社



▶ 独創的な事業展開

カラー事業と3D事業の2分野を中心に、デジタル技術でものづくりを効率化するソリューションを提案しています。

カラー事業



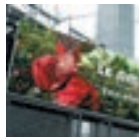
屋内外の大型看板やポスターなどを製作するサイン業界に向けて、業務用大型インクジェットプリンターなどを展開しています。

3D事業



製造業やヘルスケア分野などに向けて、刃物を使って形状を削り出す3D切削加工機やデジタル彫刻機、3Dプリンターなどを提案しています。

デジタル印刷



製造業



ヘルスケア



パーソナル



企業スローガン

創造の喜びを世界にひろめよう BIGGESTよりBESTになろう 共感を呼ぶ企業にしよう

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
第34期(2014年4月1日～2015年3月31日)が終了いたしましたので、事業の概要および連結の決算のご報告を申し上げます。

2015年6月



取締役社長 富岡昌弘

● 第34期 連結業績

成長市場に向けた製品の伸長や円安効果により、売上高は前期を上回りました。

当期における世界経済は、米国では緩やかな回復基調が続きましたが、新興国における成長率の鈍化や欧州、中東などにおける地政学的リスク、原油価格の急落などの影響により、総じて先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループでは、変化の激しい経営環境に対応すべく、グループ一体となり総合力を発揮することを目指す構造改革[GlobalOne(グローバルワン)]を推進しております。そして、その具体的な施策と数値目標を3ヶ年の「中期経営計画」にまとめ前期より実施しており、持続的な成長に向けた強固な経営基盤の構築に取り組んでおります。

このような状況の中、付加価値の高い製品による市場の活性化や新たな成長市場の開拓などに注力した結果、売上高は、看板製作などのサイン市場向けプリンターの主力機種やUVプリンター、デンタル加工機などが好調に

推移したことに加え、円安の影響もあり、前期を上回りました。費用面では販売費及び一般管理費は増加しましたが、原価率は改善しました。

利益面では、営業利益、経常利益ともに前期を上回りました。一方、デンマークおよびブラジル子会社ののれんの減損損失を計上した影響により、当期純利益は減益となりました。

なお、配当につきましては、期末の配当を30円、年間では前期から20円増配の60円とし、配当のお支払いを2015年6月18日より開始いたしました。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 第34期 連結業績

売上高	467億70百万円	前期比	11.0%増
営業利益	65億78百万円	前期比	7.6%増
経常利益	63億98百万円	前期比	2.5%増
当期純利益	31億90百万円	前期比	25.2%減

● カラー事業

新しい印刷用途の開拓に注力しています。

主力のサイン(広告・看板製作)市場においては、先進国では、市場が成熟化傾向にあることを受け、高付加価値製品の提案で活性化を図っています。一方、成長が見込まれる新興国では、積極的なセールス・マーケティング活動を展開し、販売拡大に注力しています。

当期は、これまで売上を牽引してきた高価格帯のプロ用機種XR-640が、新製品効果の一巡や競争環境の変化などの影響により販売が伸び悩んだものの、主力機種VS-iシリーズや、昨年7月に投入した新製品「VersaEXPRESS(バーサ・エクスプレス)RF-640」など、導入しやすい価格帯のプリンターが堅調に推移しました。

また、サイン以外の新たな印刷市場の開拓にも積極的に取り組んでおり、当期は、衣服やインテリア用品などのテキスタイル(布地)への印刷用途において、当社史上最速の印刷スピードを実現したXF-640や、昨年10月に発表した当社初のテキスタイル専用プリンター「Texart(テックアート)RT-640」の導入が進みました。さらに、紙以

外の多彩な材料に直接印刷ができるUVプリンターを活用した新しいプリントビジネスの提案にも注力し、スマートフォンケースやノベルティなどヘオリジナルデザインを印刷するサービスを世界規模で展開する企業に採用されるなど、新たな顧客層の開拓が進んでいます。

● 3D事業

歯科医療向けのデンタル加工機が大きく伸長しました。

デジタルデータを活用してものづくりの価値を高める大きな流れが、個人・企業を問わずさまざまな分野で広がってきております。当社ではこの「新たなものづくりムーブメント」をビジネスチャンスと捉え、「デスクトップサイズ・簡単操作・導入しやすい価格」をコンセプトとした3次元入出力装置によるデジタルものづくりを提案しております。近年では、従来の主力分野である製造業や彫刻業に加え、デンタル(歯科医療)をはじめとするヘルスケア分野やパーソナル(個人)分野を中心に、新たな市場の創出に向けた取り組みを強化しております。

歯科医療の現場では、患者の歯の形状をデジタルデータ化して治療に活用するケースが増えていることに加え、歯の詰め物や被せ物の材料として、ジルコニアやハイブリッドレジンなどの新素材が登場していることもあり、デジタルデータから形状を削り出すデンタル加工機へのニーズが急速に高まっています(詳細は9-10頁の特集を参照)。当期には、歯科医療に向けたデンタル加工機DWXシリーズが、北米や日本などを中心に大きく伸長し、売上を牽引しました。一人ひとりに合った治療やサービスが必要な歯科医療をはじめとするこのヘルスケア分野は、デジタル技術やものづくりのノウハウといった当社が持つ強みを発揮

✓ CHECK

NEW 10月6日発表



Texart
RT-640

衣服やインテリア用品などのテキスタイル(布地)への印刷用途に特化したプリンターです。新開発の専用インクおよび出力用ソフトウェアとの組み合わせにより、優れた画質と生産性を実現した、導入後すぐに即戦力となるテキスタイル・ソリューションです。

できる分野であり、今後も成長市場のひとつと位置づけて積極的に経営資源を投入し、さらなる事業拡大を図ってまいります。

また、昨年9月には、当社初の3DプリンターARM-10と切削加工機の最新モデルSRM-20を新ブランド「monoFab(モノファブ)シリーズ」として同時発売しました。当社がこれまで提案を継続してきた“切削”加工に、3Dプリンターの“積層”加工を加えることで生まれる新時代のデジタルものづくりを提案しています。

● 第35期通期 連結業績予想

新たな成長に向けて 構造改革GlobalOneを推進しています。

現在、当社では構造改革「GlobalOne」を推進しており、その具体的な施策と数値目標を3ヶ年の中期経営計画にまとめ前期より実施しております。本計画の2年目となる当期においても、①新たな成長機会の創出、②グローバル・ブランドの強化、③多様性に対応するマネジメントの3つの重点テーマに沿った活動に取り組んでまいりました。

販売面においては、カラー事業では、テキスタイル分野やUVプリンターによるオリジナルグッズ製作、工業印刷分野などの開拓に向けた活動を推進し、3D事業では、デンタル加工機を中心にヘルスケア分野への取り組みを強化しました。また、市場を「欧州・中東・アフリカ」「アジア・パシフィック」「北米・中南米」の3つのブロックに改編し、それぞれの地域に最適なソリューションを提案できる新しいマネジメント体制を構築しました。さらに、新規市場開拓のために専門組織を設置して、サイン市場に集中した事業構造から多軸の事業構造への転換を図っています。

生産面においては、海外生産拠点であるタイ工場の増築を行いました。これにより、タイ工場の生産能力を従来比約2倍に拡大するとともに、生産体制の分散を図りました。国内生産と同様のデジタル屋台方式を導入し、高い品質を保持しながら、コスト削減および需要増に対応しています。

また、開発面においては、技術力の強化に向けた取り組みを加速しています。新しい市場を開拓していくためには、基本となるさまざまな要素技術をスピーディかつ最適に組み合わせることで、市場の課題を解決する“付加価値”を提供していくことが必要不可欠と考えており、今後も技術優位性の強化に注力してまいります。

次期の連結業績予想については、決算期変更の経過期間のため変則的な9ヶ月決算となることから、下記のとおりとなります。なお、当期の実績を次期の決算期間と同様に補正して比較した場合、売上高は増収となるものの、新規市場開拓に向けた研究開発費の増加に加え、主にユーロの為替レートを円高に想定した影響もあり、営業利益および経常利益は減益となる見込みです。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては増益を見込んでおります。

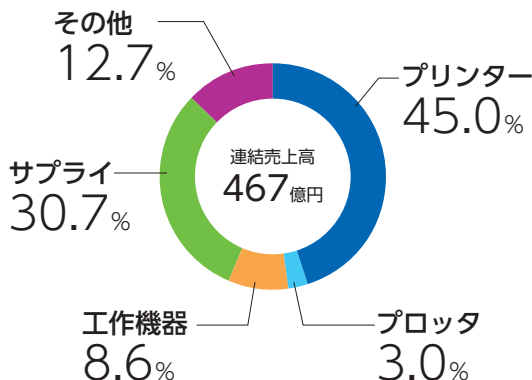
■ 第35期通期連結業績予想 (2015年4月1日～2015年12月31日)

	当期(第34期) 実績(補正後)	次期(第35期) 予想	増減率 (補正後)
売上高	448億円	456億円	1.6%
営業利益	53億円	47億円	△11.4%
経常利益	50億円	44億円	△13.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	23億円	29億円	26.0%



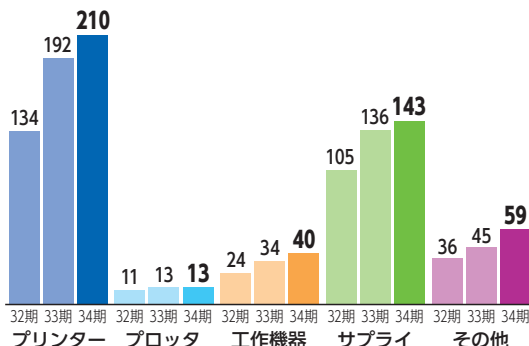
品目別

● 売上高構成比(第34期)



● 売上高推移

(単位：億円)



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

プリンター

210億53百万円(前期比9.3%増)

主力のサイン市場に向けた高価格帯のプロ用機種が伸び悩みましたが、導入しやすい価格帯の機種が堅調に推移しました。また、布地への印刷用途向けのテキスタイル・プリンターやオリジナルグッズ製作用途向けのUVプリンターなど、新しい印刷市場に投入した製品が好調に推移し、前期を上回りました。

プロッタ

13億98百万円(前期比7.3%増)

主力機種の販売が堅調だったことに加え、新製品「CAMM-1(キャムワン)GS-24」を発売したこともあり、前期を上回りました。

工作機器

40億26百万円(前期比17.9%増)

デンタル加工機DWXシリーズが、特に上期を中心に大きく伸ばしました。歯の詰め物や被せ物の製作プロセスをトータルソリューションとして提案できる体制作りや販売網の整備・拡充が進み、先進国を中心に好調に推移しました。また、2014年9月には当社初の3Dプリンターと切削加工機の最新モデルを同時発売し、新しいデジタルものづくりを提案しました。これらの結果、工作機器の売上高は、前期を上回りました。

サプライ

143億51百万円(前期比5.5%増)

プリンターの販売増加にともない、インクの売上が増加し、前期を上回りました。

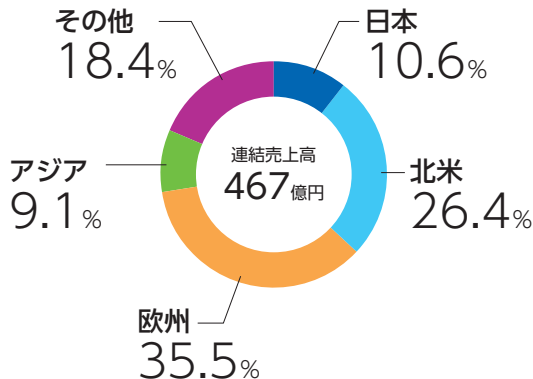
その他

59億39百万円(前期比30.3%増)

保守やサービスパーツなどのその他売上については、プリンターの導入増にともなう保守契約の増加などにより、前期を大きく上回りました。

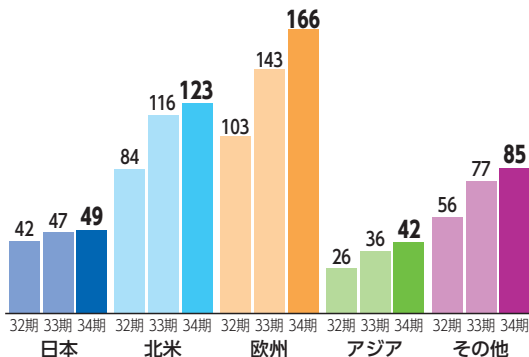
地域別

● 売上高構成比(第34期)



● 売上高推移

(単位：億円)



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

日本

49億60百万円(前期比 4.9%増)

プリンターでは、UVプリンターが堅調に推移しました。工作機器では、デジタル加工機が、2014年4月からスタートした「デジタルデータを用いて製作した一部の歯の詰め物や被せ物に対する保険適用」にともなう、歯科工所の設備投資需要を取り込んだことにより大きく伸長し、前期を上回る結果となりました。

北米

123億51百万円(前期比 6.1%増)

プリンターでは、サイン市場向けの高価格帯のプロ用機種が伸び悩みましたが、主力機種 VS-i シリーズや UV プリンターが伸長しました。また、工作機器では、販売網の整備・拡充が着実に進んだデンタル加工機 DWX シリーズが堅調となりました。これらに加え円安効果もあり、前期を上回りました。

欧州

166億16百万円(前期比 15.8%増)

地政学的リスクなどの影響により、ロシアや北欧は伸び悩みましたが、南欧地域は回復基調となりました。プリンターでは、主力機種の VS-i シリーズが堅調に推移し、また、プロ用機種 XF-640 がテキスタイル用途で導入が進みました。さらに、UV プリンター LEF シリーズが、スマートフォンケースなどのオリジナルグッズ製作用途で大きく伸長しました。デンタル加工機も各国で売上を伸ばし、欧州全体では、前期を上回る結果となりました。

アジア

42億50百万円(前期比 17.0%増)

中国や韓国において、現地のサイン製作の現場で使用頻度の高い水性インクに対応したプリンターが市場ニーズを捉え、売上を伸ばしました。また、ASEAN 地域では、販売子会社が各国の販売店との連携強化を図りながら、積極的なセールス・マーケティング活動を推進したことにより売上を伸ばし、前期を上回りました。

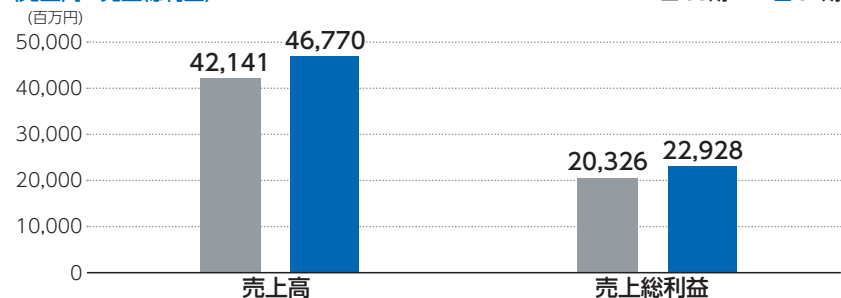
その他

85億92百万円(前期比 10.3%増)

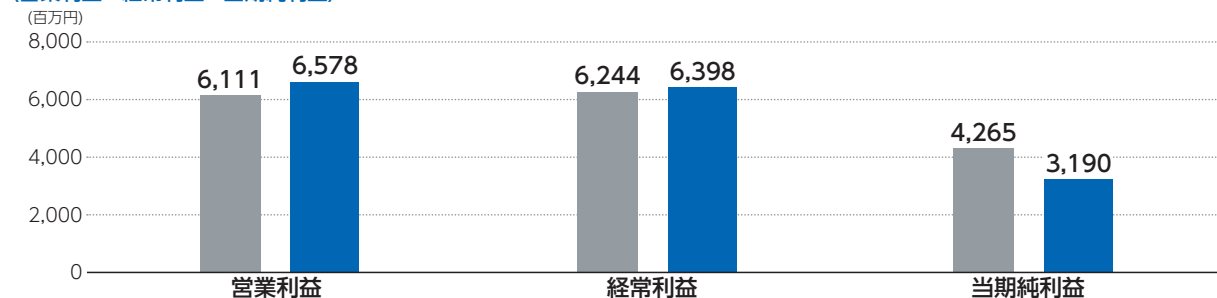
オーストラリアでは、プリンターの低価格帯の機種や UV プリンター LEF シリーズが堅調に推移しました。また、ブラジルでは、プロ用機種 XF-640 がテキスタイル用途で伸長し、さらに、アフリカや中東地域も好調な販売となり、前期を上回りました。

■ 連結損益計算書の概要 (単位：百万円)

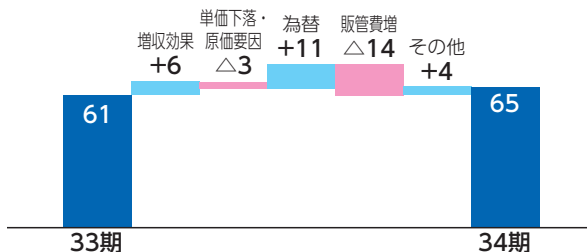
〈売上高・売上総利益〉



〈営業利益・経常利益・当期純利益〉



〈営業利益の変動要因〉 (単位：億円)



POINT 連結損益計算書

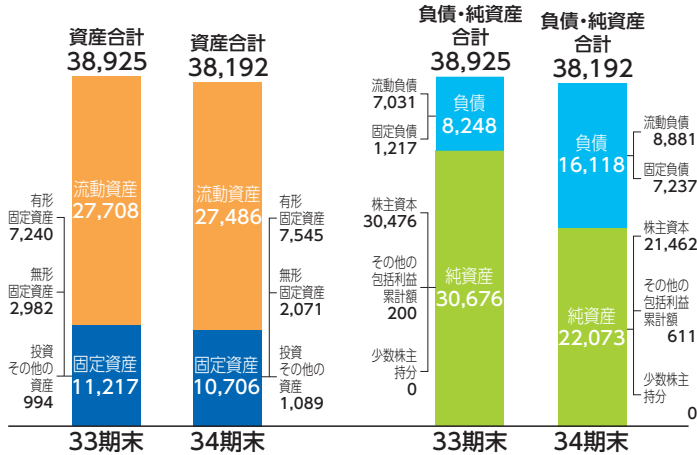
売上高は、円安効果もあり、前期比11.0%増の467億70百万円となりました。費用面では、前期と比べ原価率が改善したものの、人件費や広告販促費、支払手数料などの増加により販売費及び一般管理費が増加しました。これにより、営業利益は、前期比7.6%増の65億78百万円となりました。また、経常利益では、営業外費用において自己株式取得費用が発生したこともあり、前期比2.5%増の63億98百万円となりました。当期純利益につきましては、デンマークおよびブラジルの連結子会社に関するのれんの減損損失を9億89百万円計上した影響などにより、前期比25.2%減の31億90百万円となりました。

さらに詳しい情報につきましては、下記のIRサイトをご覧ください。
<http://www.rolanddg.co.jp/ir/>

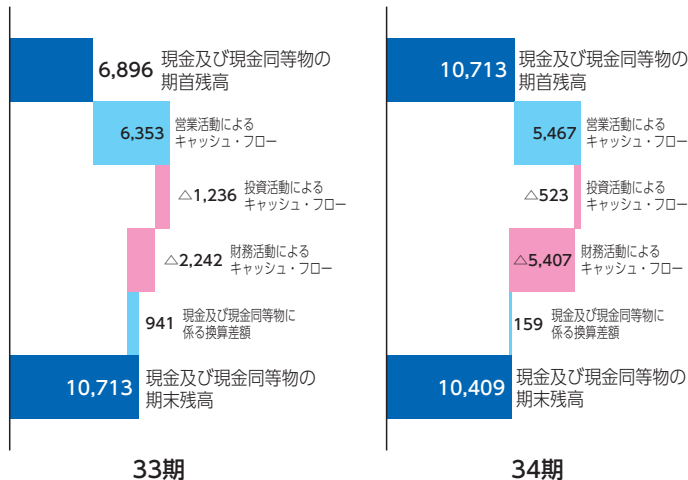
ローランド ディー.ジー. IR

検索

■ 連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



POINT 連結連結貸借対照表

流動資産では、商品及び製品、原材料及び貯蔵品がそれぞれ4億円増加した一方、現金及び預金が12億円減少しました。固定資産では、ソフトウェアが4億円増加し、連結子会社に関する減損損失の計上もあり、のれんが13億円減少しました。

流動負債では、支払手形及び買掛金が7億円増加し、自己株式の取得資金として借入れたうち、14億円が1年内返済予定の長期借入金として増加しました。固定負債も同じく54億円が長期借入金として増加しました。

純資産では、当期の業績などともなう増加があるものの、自己株式の取得および消却で利益剰余金が85億円減少し、自己株式が6億円増加しました。一方で、その他の包括利益累計額に含まれる為替換算調整勘定は、6億円増加しました。

POINT 営業活動によるキャッシュ・フロー

増加要因は、連結子会社に関してのれんの減損損失を計上したこと、また、売上債権が減少し、仕入債務が増加したことなどによります。減少要因は、税金等調整前当期純利益が減少し、たな卸資産が増加したこと、その他の流動負債が減少したことに加え、法人税等の支払額が増加したことなどによります。

POINT 投資活動によるキャッシュ・フロー

当期は前期と比べ、有形固定資産の取得による支出が増加した一方、定期預金の払戻しなどによる収入の増加があり支出減となりました。

POINT 財務活動によるキャッシュ・フロー

前期は短期借入金の返済により支出増となったのに対し、当期は借入れによる調達を行ったものの、自己株式の取得を行ったため大幅な支出増となりました。

特集

デンタル業界での取り組み



当社では、新たな成長分野として注力しているヘルスケア分野での取り組みの一つとして、デンタル(歯科医療)業界に向けて2010年より歯の詰め物や被せ物など補綴物(ほてつぶつ)の製作工程をデジタル化するデンタル加工機を提案してまいりました。当社が最初にデンタル業界での可能性を感じたきっかけは、金属材料に替わる新しい補綴物の素材として機能面、人体親和性に優れた「ジルコニア[®]」が登場したことです。ジルコニアは削り出しが唯一の加工方法であることから、当社が長年培ってきた切削加工の経験とノウハウを活かすことでビジネスチャンスが生まれると判断しました。デンタル業界への取り組みについてデンタル事業開発マネージャーの細目拓郎よりご紹介いたします。

デンタル事業開発マネージャー 細目 拓郎

Q DWXシリーズの特長を教えてください。

A DWXシリーズは加工機の操作経験のない方にも受け入れられやすいよう、当社の3D製品の開発コンセプトである「デスクトップサイズ・簡単操作・導入しやすい価格」を継承しました。同時に、市販の機器やソフトウェアとの組み合わせの自由度が高いことも大きな特長です。2010年に当社初のデンタル加工機DWX-30を発売以降、5軸制御のDWX-50、2013年にはコンパクトサイズのDWX-4を発売しています。当社では、歯科医院や病院から発注された補綴物を実際に製作する歯科技工所に向けて、デジタル加工による作業の効率化を提案しています。

Q 当社の強みは何ですか？

A 当社は以前より海外子会社や販売店などを通じて、世界200以上の国と地域でビジネスを展開

しており、そのグローバルな販売ネットワークによるスピーディかつ地域に根ざした活動を行えることが大きな強みです。現地の業界に精通したスタッフがセールス・マーケティングを行うため、お客様からの要望を次期製品に的確に反映することができます。また、従来からサポート体制の強化にも注力しており、導入前の相談から導入後のサポートまできめ細かく行えることも当社の強みとなっています。製品性能に加えてサポート体制で他社との差別化を図ってきたことが奏功し、先進国を中心に急速に販売が進み、2015年3月現在でシリーズ合計3,000台以上を出荷するなど、市場での地位が高まってきています。

Q 現在開発中のDWX-4Wの特長と手応えはいかがですか？

A 近年、デンタル市場に「ガラスセラミックス[®]」という新素材が登場し、注目が集まっています。ガラスセラミックスは非常に強度が高く、表面にダイヤモンドの粉末を固着させた専用のミリングバーで研

削加工をします。そのため、研削時に発生する摩擦熱を除去すると同時に、粉塵の飛散を防止するために、水を掛けながら加工する「ウェット加工方式」を採用する必要があります。ガラスセラミックスへ対応する、当社初となるウェット加工方式のミリングマシンがDWX-4Wです。

開発中の

DWX-4W



ジルコニア

金属よりも高い強度を持ち、見た目も自然な歯の色に近いセラミックの新素材。

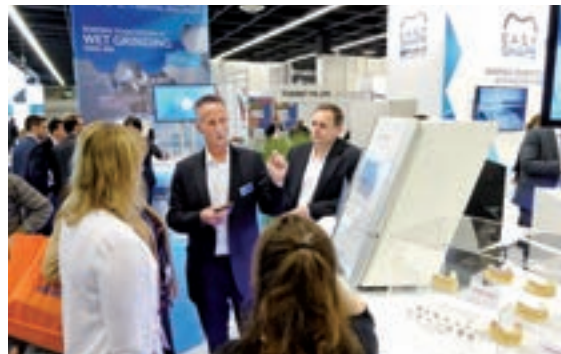
ガラスセラミックス

強度、耐久性が高く、審美性にも優れたセラミックの新素材。



ガラスセラミックス

開発中のDWX-4Wは、3月にドイツのケルンで開催された世界最大の歯科医療機器展示会「IDS2015」をはじめ各国の展示会に順次、参考出展しています。競合他社では一台でウェット加工とドライ加工ができるハイブリッド機が主流となっていますが、当社は独自のソリューションとして、発売中のドライ加工機(DWX-50、DWX-4)とウェット加工機(DWX-4W)それぞれの専用機による使い分けを提案しています。お客様との会話の中でも、専用機としての製品性能の高さや使いやすさ、お客様の既存システムにも増設しやすい点を高く評価いただいていることがわかりました。また、世界中で展開されているユーザーサポート体制、既存製品への信頼性から、「ローランド ディー.ジー.のウェット加工機を待っていた」という声を多く聞くことができました。

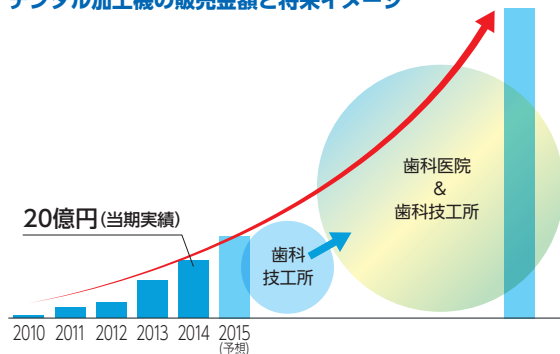


IDSの当社ブースの様子

Q 今後の意気込みを聞かせてください。

A 歯科医療業界のデジタル化は今後さらに進んでいくと確信しています。まだデジタル化が始まっていない国や地域に対して、グローバルな販売網を活用して展開していくこと、次々と登場する素材への対応力の強化、さらに現在は歯科技工所をターゲットとしています。これらの課題を中期的に実現していくことで、デンタル分野を事業の柱のひとつにしていきたいと考えています。

デンタル加工機の販売金額と将来イメージ



TOPICS
1

monoFab Experience Day 開催

3Dプリンターおよび切削加工機の新ブランドmonoFabシリーズの発売を記念し、体験型イベント「monoFab Experience Day(モノファブ・エクスペリエンスデー)」を10月16日、17日に東京で、さらに「monoFab Experience Days2」を2月17日より、国内各地のクリエイティブセンターで開催いたしました。当日は、monoFabシリーズと各種加工機の実演をはじめ操作方法の説明やソリューション提

案を行う3D相談会、さらに外部講師による講演会を行いました。3Dプリンターのトレンドや製造業における活用事例など、ここでしか得られない情報に来場者の皆さんも熱心に耳を傾けていらっしゃいました。今後も、光造形による積層方式、切削加工方式のそれぞれの特長と魅力を伝えることで、お客様のビジネスに繋がる提案を行ってまいります。



外部講師による講演会



当社スタッフによる製品紹介



3D サンプルコーナー

TOPICS
2

当社カッティングマシンの世界累計販売台数42万台突破!

当社は1988年に初のカッティングマシンを発売開始し、2014年12月現在で世界累計販売台数が42万台を突破いたしました。カッティングマシンは、コンピュータ上で描いた文字やイラストなどの輪郭データをデジタル制御されたカッターでビニールシート上に切り出していく製品です。初号機の発売当時のカッティングのシステムは、コンピュータ、カッティングマシン、ソフトウェア、シートなどをセットにして提供されることが一般的でした。そのため、大変高額で導入に踏み切れない方が多かったことから、当社は「パソコンとカッティングマシンがあれば、誰もが簡単にサインビジネスを開業できること」をコンセプトに、投資しやすい価格帯のカッティングマシンを開発。国内外で大きな評判を呼び、広告・看板を製作するサイン市場で受け入れられました。その後も、高機能化と低価格化を推し進め、個人向けの小

型機からプロ向けの大型機までラインナップを充実させるとともに、初心者の方でもすぐに操作できるソフトウェアの標準付属、市販のプリンターで印刷したデザインの輪郭をカットできる機能など、業界の先駆けとなる機能を提供してきたことで、サイン市場におけるトップブランドの地位を確立しました。今年1月に発売を開始した新製品のCAMM-1(キャムワン)GS-24もこれまでの開発ポリシーを継承しながら、最先端の技術を取り入れました。今後も当社ならではの視点で、お客様のビジネスの可能性を広げるソリューションを提案してまいります。

新製品

CAMM-1 GS-24

2015年1月13日発売



決算期(事業年度の末日)の変更および定款一部変更に関するお知らせ

従来、当社グループの事業年度は、当社が毎年4月から翌年3月までの12ヶ月、海外子会社が1月から12月までの12ヶ月としてまいりました。第35期より海外連結子会社と決算期を統一することで、経営情報の適時、的確な開示により経営の透明性をさらに高めるとともに、グローバルな事業の一体運営を一層推進するため、当社の事業年度を毎年1月1日から12月31日までに変更いたします。

決算期変更の経過期間となる第35期は、当社が2015年4月1日から12月31日までの9ヶ月間、海外連結子会社は従来通り1月1日から12月31日までの12ヶ月間が対象期間の変則決算となります。2016年からは当社および全ての海外連結子会社が、1月1日から12月31日までの12ヶ月決算となります。

	第34期				第35期				第36期			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
当社		■			■				■			
海外子会社	■				■				■			

また、決算期変更にともない、定款条項のうち「招集、定時株主総会の基準日、事業年度、剰余金の配当の基準日、中間配当」につきまして、以下の通り変更を行います。

	変更前	変更後
招集 (定時株主総会の招集)	毎年6月	毎年3月
定時株主総会の基準日	毎年3月31日	毎年12月31日
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日	毎年1月1日から12月31日
剰余金の配当の基準日 (期末配当の基準日)	毎年3月31日	毎年12月31日
中間配当	毎年9月30日	毎年6月30日

なお、変則決算期間となる第35期(2015年4月1日から12月31日まで)の中間配当基準日は9月30日、期末配当基準日は12月31日となります。

個人投資家向け会社説明会を実施しました

個人株主層の拡大と企業認知度向上を目的に、個人投資家向け会社説明会を12月2日に三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社名古屋支店、3月10日に野村證券株式会社浜松支店にて実施し、合計221名のお客様に参加いただくことができました。説明会では、会社概要と当社製品がどのような用途で活用されているのかを中心に説明をさせていただきました。また、双方向コミュニケーションに重きを置き、浜松会場では当社製品で出力したサンプルを展示し、参加者の皆様からの質問に直接お答えしました。今後も継続的な個人投資家の皆様に向けたIR活動を通じて、当社の認知度向上を目指してまいります。



会場：三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社(名古屋)



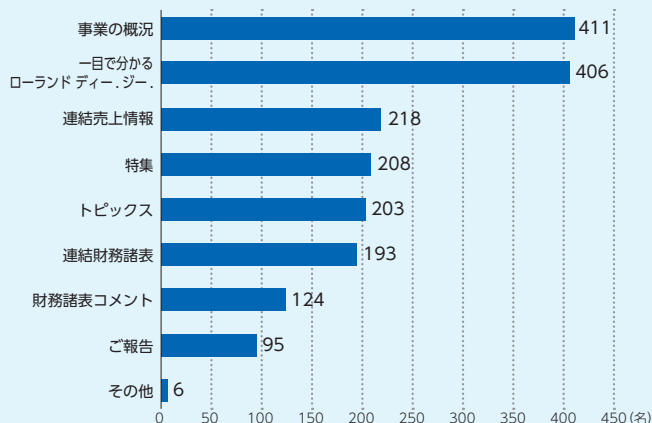
会場：野村證券株式会社(浜松)

DG Value News アンケート集計結果

期 間：2014年12月10日～2015年3月31日
 回答数：780名(2014年9月30日現在の株主数7,304名)

当社が提供する新しい価値を株主の皆様へわかりやすくお伝えできるよう、アンケート結果を参考にさせていただくとともに、株主の皆様からいただいた貴重なご意見・ご要望は今後の経営に活かしていきたいと考えております。下記にアンケート集計結果の一部をご紹介します。

Q 本誌をお読みになり、興味を持たれた項目をお聞かせください(複数回答可)



前号の特集では、9月より発売を開始した monoFab (モノファブ) シリーズの紹介をはじめ、当社のデジタルものづくりの考え方をご報告させていただきました。

今回は中期経営計画にもとづき、新たな成長機会の創出の一つとして注力しているヘルスケア分野のうちデンタル業界への取り組みをご紹介します。

今後も皆様からのご意見・ご感想をもとに、当社が注力している分野を中心にご理解いただける誌面作りに取り組んでまいります。

会社概要

商号	ローランド ディー.ジー.株式会社
設立	1981年5月1日
資本金	3,668,700,000円
主な事業内容	コンピュータ周辺機器の製造販売
従業員数	1,181人(連結)

役員一覧 (2015年6月17日現在)

取締役会長兼社長 ^{※1}	富岡 昌弘	
取締役副会長	ロバート・カーチス	
取締役副社長	藤岡 秀則	
専務取締役	鈴木 渉	
常務取締役	堀田 修史	
取締役	デビッド・ゴワード	
社外取締役 ^{※2}	広瀬 卓生	※1 代表取締役です。
社外取締役 ^{※2}	晝馬 明	※2 社外取締役 広瀬卓生氏、晝馬明氏および奥田千恵子氏、社外監査役 遠藤克博氏および松田茂樹氏は、(株)東京証券取引所が定める独立役員です。
社外取締役 ^{※2}	奥田千恵子	
監査役	中川 正則	
監査役	鈴木 正康	
社外監査役 ^{※2}	遠藤 克博	
社外監査役 ^{※2}	松田 茂樹	

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

事業所

本社	浜松市北区新都田一丁目6番4号
都田事業所	浜松市北区新都田一丁目1番3号
営業所	東京、名古屋、大阪、福岡
サポートセンター	札幌、仙台、広島

海外グループ会社

Roland DGA Corporation (アメリカ)
 Roland DG Benelux N.V. (ベルギー)
 Roland DG (U.K.) Ltd. (イギリス)
 Roland Digital Group Iberia, S.L. (スペイン)
 Roland DG Mid Europe S.r.l. (イタリア)
 Roland DG North Europe A/S (デンマーク)
 Roland DG Australia Pty. Ltd. (オーストラリア)
 Roland DG (China) Corporation (中国)
 Roland DG Korea Inc. (韓国)
 Roland DG Brasil Ltd. (ブラジル)
 Roland DG EMEA, S.L. (スペイン)
 Roland Digital Group (Thailand) Ltd. (タイ)
 Roland DG Deutschland GmbH (ドイツ)
 Roland DG Europe Holdings B.V. (オランダ)
 Roland DG RUS LLC (ロシア)

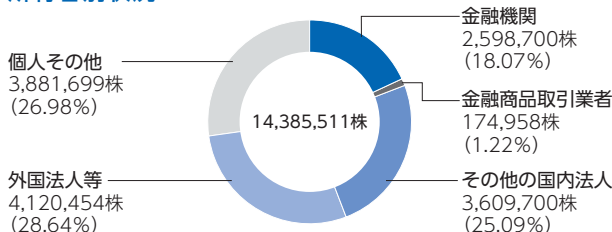
株式の状況

発行可能株式総数	71,200,000株
発行済株式の総数	14,385,511株
株主数	10,828人

株主名	持株数	出資比率
ローランド株式会社	3,560,000株	24.75%
TAIYO FUND, L.P.	1,350,200株	9.39%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	566,200株	3.94%
BNYML - NON TREATY ACCOUNT	400,100株	2.78%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	364,200株	2.53%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	360,500株	2.51%
ローランド ディー.ジー. 社員持株会	353,000株	2.45%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	346,700株	2.41%
富岡昌弘	312,600株	2.17%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	144,600株	1.01%

※上記のほか当社所有の自己株式3,000株(0.02%)があります。

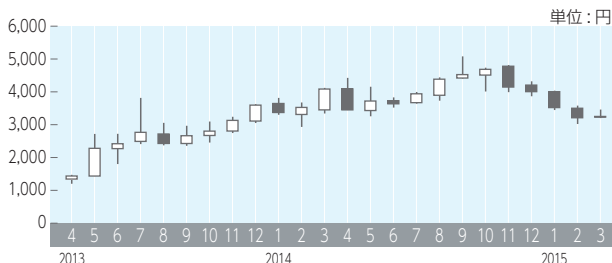
所有者別状況



※自己名義株式3,000株は「個人その他」、証券保管振替機構名義株式8,500株は「その他の国内法人」に含まれています。

※記載比率は、小数点第2位未満を四捨五入して表示しています。

株価の推移



株主メモ

第34期定時株主総会において「定款一部変更の件」が承認され、事業年度を変更いたしました。

事業年度	毎年1月1日から12月31日 (第35期は4月1日～12月31日までの9ヶ月)
定時株主総会開催時期	3月
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会の議決権 および期末配当 12月31日 中間配当 6月30日(第35期は9月30日) その他必要があるときは、あらかじめ公告します。
公告方法	当社の公告は電子公告とし、 インターネットホームページに掲載します。 http://www.rolanddg.co.jp/ir/ ※ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711(通話料無料) [受付時間9:00～17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)] ホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
株主優待	2015年3月31日現在の1単元(100株)以上所有の株主様に、年1回当社が選んだ世界各国の名産品(3,000円相当)を掲載したオリジナルカタログの中から一品を選択していただくものです。(2015年6月実績)
本誌に関する お問い合わせ先	IR課 TEL 053-484-1400
株式・株主優待に 関するお問い合わせ先	総務課 TEL 053-424-5041

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IR サイトのご案内

当社では株主や投資家の皆様当社を正しくご理解いただくとともに、最新情報を公平かつ迅速に提供することを目的に、ホームページを活用した情報開示を行っています。ぜひ、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください。



● 最新IRイベント

直近の決算発表日や個人投資家向けのIRイベントへの出展など、IRに関する最新情報をお知らせしています。

● IRメール配信

メールアドレスをご登録いただいた方には、ニュースレターや決算情報などの最新情報をメールにてお知らせしています。

● はやわかりローランド ディー・ジー

「事業内容」や「業績」などの基本情報のほか、「当社の強み」や「当社製品の活用事例」などをわかりやすく紹介しています。

今後も皆様のご意見を反映させながら、IR活動の充実を図ってまいります。

<http://www.rolanddg.co.jp/ir/>

ローランド ディー・ジー・IR

検索

Imagine. 
<http://www.rolanddg.co.jp/>


UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

 ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C022915

 VEGETABLE
OIL INK